

令和元年6月26日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04129

研究課題名(和文) 香港で社会運動に参加したインドネシア人家事労働者の帰国後のライフコース選択

研究課題名(英文) Post-Migration Life-Course Choice of Indonesian Domestic Workers in Hong Kong

研究代表者

澤井 志保 (Sawai, Shiho)

天理大学・国際学部・講師

研究者番号：40636453

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国際移住家事労働者が移住先の国で社会運動に参加した経験が、帰国後の本人の生活や価値観の選択にみられるライフコースにどのような影響を与えるか検討した。特に、香港で移住家事労働者として働きながら社会運動グループに参加した経験を持つインドネシア人約100名に対して質問票調査と聞き取りを行い、香港での社会運動への参加がどのような意味を持つのか、キーワード分析による考察を行った。これにより、回答者が上記の社会運動参加経験によって、社会資本、経済資本を蓄積し、宗教意識やその他の社会問題への関心を高めており、それらを積極的に帰国後のキャリア再建に生かそうとしていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、家事労働者による社会運動グループ参加は、参加者の経済資本、社会資本の蓄積に役立つとともに、グローバルな所得格差やケア労働の連鎖など、国際移住家事労働をめぐる社会問題や、グローバルな環境問題や宗教的多様性の尊重などの広義の社会的関心を向上させることが明らかになった。加えて、これらの資本や社会的関心は、帰国後の移住労働者の起業内容にも大きく関連づいていたことから、国際移住家事労働中の社会運動参加は、帰国後の家事労働者のキャリア再建プロセスと円滑な社会再統合にも役立つと考えられる。従って本研究は、政府系機関が、国際移住家事労働者の社会運動やその他の社会参画を推進するべきだと指摘した。

研究成果の概要(英文)：This study investigated how Indonesian migrant domestic worker(IDW)s' involvement in social movements affects their values and life-course choices after returning to Indonesia for good.

Especially this study focused on the case of Hong Kong, where is the center of IDW social activism, by carrying out surveys and follow-up interviews with about a hundred respondents regarding how far they perceived useful their participation in various IDW groups was during their migration labor. Then we conducted analyses on the survey and interview results, concluding that the respondents generally consider that they have developed social and economic capitals as well as better religious awareness by their involvement in groups, and they have also nurtured a broader sense of social and environmental justice. Moreover, many respondents were actively linking their social and economic capitals and religious and social awareness to their micro-entrepreneurship started to rebuild their careers.

研究分野：社会学

キーワード：社会資本 ソーシャル・アントレプレナーシップ キャリアチェンジ

## 1. 研究開始当初の背景

現在、アジア域内での家事労働者の移住労働の拡大により、香港が国際移住家事労働者（殆どが女性）の社会運動の一大拠点となっている。多くのアジア諸国では外国人の非熟練労働者が社会運動に参加することは困難であるが、香港は、東アジア有数の外国人家事労働者受入地域であるとともに、外国人労働者を含めたすべての居民に対して、団結権と団体交渉権を保障していることが、外国人の非熟練労働者による社会運動を可能にした。こうして香港では、二大多数派であるフィリピン人（約 17 万人）と、インドネシア人家事労働者（約 15 万人）が、外国人家事労働者の公定休日である毎週日曜に、現地の公共圏（公園や公共施設等）にて多様な社会運動を行っている。本研究は、この中で比較的研究の蓄積があるフィリピン人（主にカトリック）ではなく、2000 年以降に増加したゆえに先行研究が少ないムスリムのインドネシア人家事労働者（Indonesian Domestic Workers, 以下 IDW）に注目して、あるイスラーム文学創作運動グループを取り上げて、IDW による文化運動という位置づけから考察を行ってきた。

そこで明らかになったのが、ホスト国で社会運動に参画する経験が、IDW 運動参加者に大きな自信と自己肯定感を与えているという点であったが、しかしこの知見はさらなる疑問を生み出した。例えば、IDW 運動参加者は、自己肯定感以外にどのような利点を運動参加に見出しているのだろうか。そして香港での運動経験は、出身国への永久帰国（以下、帰国）後の彼女らの社会再統合にも役立っているのだろうか。香港で彼女らが従事する家事労働には、帰国後のキャリアに結び付けにくいという問題がある。したがって国際移住家事労働者が母国に帰国した後は、新たな現金収入の道を模索することが必要になり、ひいてはこの点が彼女らのインドネシア社会への円滑な再統合の可否を決めるといっても過言ではない。このように、帰国後のキャリア再建のプロセスに香港での労働中に培った社会運動経験が役立つとすれば、国際移住家事労働者のホスト国での広義の社会参画を後押ししていくことの有効性のひとつの証左を本研究が示すことができる。その意味においては、現在の国際移住家事労働者の社会運動参加については、ホスト国の視点からだけでなく、ホスト国・出身国社会を横断的に考察する研究が求められているということがいえる。

## 2. 研究の目的

上記 1. を踏まえ、本研究では、以下の 3 点に目的を絞って調査を行った。

社会運動参加経験をもつ IDW は、社会運動参加経験がどのような利点をもたらすと評価しているか詳細に把握する。

社会運動参加経験をもつ IDW は、帰国後にどのような形でキャリアの再構成をするのかを理解する。

社会運動参加経験をもつ IDW の帰国後のキャリア再構成に、香港での社会運動経験がどのように役立っているかを考察する。

上記の目的を達成できれば、元 IDW のホスト国での社会運動経験と、帰国後のキャリア再構成のあいだに相関性があるかどうかを判断することができ、国際移住家事労働者のホスト国での社会運動経験と送り出し国での再統合をひとつのプロセスとして捉えることが可能である。そうすれば、国際移住家事労働という社会現象を、社会運動という切り口を通してホスト社会と出身国を横断的に考察するという新たな視点を本研究が提示することができる。

## 3. 研究の方法

本研究は、国際移住家事労働者が移住先の国で社会運動に参加した経験が、帰国後の本人の生活や価値観の選択にみられるライフコースにどのような影響を与えるか検討した。従って、香港で移住家事労働者として働きながら社会運動グループに参加した経験を持つインドネシア人約 100 名に対して質問票調査と聴き取りを行い、香港での社会運動への参加がどのような意味を持つのか、キーワード分析によるトライアングル手法を使用した考察を行った。以下は、当初の研究計画である。

【平成 28 年度】 インドネシア、香港にて情報収集のための予備調査、資料収集。

【平成 29 年度】 インドネシアにて社会運動の元メンバー約 100 名への半構造化聴取り調査実施。

聴取り録音を原稿化、キーワード分析。

分析結果について、国内外の研究者との意見交換。

【平成 30 年度】

分析と研究者との意見交換の結果を踏まえて、投稿論文を作成、投稿。

国内の学術会議にて研究成果発表。

国際会議にて研究成果発表。

#### 4. 研究成果

上記調査の結果として、次のことが明らかになった。

まず、回答者の半数以上が既婚であり、帰国後は東ジャワ州のブリタル、マディウン、マゲタン、ポノロゴ県に在住していた。回答者のうち、国際移住労働前にインドネシアで社会活動グループに参加経験があるものは約6割であった。約4割は、香港に移住してから初めて、社会活動グループに参加していた。

質問調査の結果からは、回答者が香港での社会運動参加経験によって、社会資本、経済資本を蓄積しつつ、宗教意識とその他の社会問題への知識関心を高めていることが見出された。回答者の9割以上が、香港での社会活動経験を極めて意義深いものだったと評価していたが、その理由についてはばらつきがあった。しかし、回答者のほとんどが、香港での活動経験から得た知識やネットワークを積極的に帰国後のキャリア再建に生かそうとしていた。この点を認識した後、研究者は特定の回答者に対して個別の聴き取りインタビューを行い、回答を解析した結果、インドネシアへの帰国後は、多くの回答者が、香港で得た知見を活用して起業を実現させていたことがわかった。聴き取り対象者は、香港で得た貯金と人脈に加えて、環境保全やその他社会正義のために行動を起こす姿勢を身に付けてきており、これを生かして「ソーシャル・アントレプレナーシップ(以下SE)」ともいうべき社会的起業を実現していたのである。無論、回答者の多くは、香港への就労出発前の時点で、帰国後は起業することを念頭においてはいたものの、それは単に、海外で得た経済資本を投資して生計維持に結びつけるための方法として認識されていた。しかし、国際移住家事労働とホスト国での社会活動グループに参加し、多様な資本と社会的理想を蓄えた結果、回答者は、起業の意味を、香港で蓄積した資本とアイデアを融合させる手段として再定義することになった。この意味において、国際移住家事労働とホスト国での社会活動グループ参加が、回答者にとっての起業の意義と目的を再創造させたといえる。

したがって、回答者のホスト国での社会運動経験と帰国後のキャリア再構成のあいだには大きな相関性があると考えられる。これを踏まえて本研究は、国際移住家事労働者の社会運動参加について、参加者が経済資本とともに社会資本や社会的知識を総合的に獲得できるよう、送り出し国とホスト国双方の政府公共機関、NGOなどが協力しながらサポートをしていくことが望ましいという結論を出した。これが実現できれば、社会運動という余暇活動を通して、国際移住家事労働者の出身国とホスト国での経験を適切に橋渡ししながら、帰国後の起業によるキャリア再形成を後押しできるものと考えられる。このような流れができれば、国際移住家事労働者の帰国後の出身国社会への再統合についても、より円滑に進むものと考えられる。

なお、本研究は、当初の研究計画にほぼ沿った時間配分で成果をあげることができた。たとえば、上記3.の～は、すべて予定どおりに完了済みである。の学会発表については、国際移住家事労働者研究が活発な日本社会学会の研究大会において、2016年から2018年まで、毎年研究成果を発表し、研究結果の発信を行ってきた。の国際学術発表については、本年度にインドネシアにて本研究の最終報告を行うことを予定している。さらに、英語論文を含む雑誌論文2本の出版を達成することができた。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

Shiho Sawai & Christine E. Bose. (2020). “Transnational-Migrant Domestic Workers’ Cultural Activism Online: The case of an Indonesian Islamic-writing group in Hong Kong”, in *International Journal of Japanese Sociology*, Vol. 29. Draft accepted on 20 June 2019.

澤井志保 (2018 年). 香港でグループ活動に参加した経験を持つインドネシア人家事労働者の帰国後 - 起業と社会資本、ジェンダー規範 - . インドネシア・ニュースレター第 98 号、PP.28 - 35 .

澤井志保 (2017 年). 香港で働くインドネシア人家事労働者のイスラーム文学創作グループに見られるインターセクショナルリティ . 日本インドネシア学会『インドネシア 言語と文化』第 23 号、PP.83-100.

澤井志保 (2017 年). シンガポールの光と影-この国の映画監督たち - . 天理大学南方文化研究会『南方文化』第 43 輯、PP.127-131.

〔学会発表〕(計 5 件)

澤井志保 . 香港のインドネシア人家事労働者による社会活動グループ参加と帰国後のライフコースへの影響 . 2018 年 9 月 15 日 . 第 91 回日本社会学会研究大会 . 甲南大学岡本キャンパス .

澤井志保 . 香港で社会運動に参加したインドネシア人家事労働者による『価値の創造』と帰国後のライフコース選択 . 2017 年 11 月 05 日 . 第 90 回日本社会学会研究大会 . 東京大学本郷キャンパス . (Dr Djoko Sigit Sayogo と共同発表)

Shiho Sawai . Penerbitan Buku oleh Buruh Migran Indonesia dan Perkembangan Penerbit bersekala Kecil ke Menengah di Yogyakarta. (「インドネシア人国際移住家事労働者による文学出版とジョグジャカルタ地区の中小規模出版社の発展」) 2017 年 8 月 25 日 . インドネシア共和国ガジャ・マダ大学文化知識学部講堂 .

澤井志保 . 香港のインドネシア人家事労働者による宗教文学創作運動からみる(再) 生産領域のグローバル化 . 2016 年 10 月 08 日 . 第 89 回日本社会学会研究大会 . 九州大学伊都キャンパス .

澤井志保 . 香港で働くインドネシア人の家事労働者のイスラーム文学創作グループに見られるインターセクショナルリティ . 2016 年 11 月 20 日 . 第 47 回日本インドネシア学会研究大会 . 愛知大学サテライトキャンパス .

〔図書〕(計 0 件)